



上野総合市民病院だより

◆訪問看護ステーションの活動紹介

訪問看護ステーションでは、利用者が可能な限り居宅で、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、在宅療養支援に取り組んでいます。

病院併設のメリットを生かし、退院から在宅生活への移行を切れ目なく支援する体制を整えています。また、当院の退院患者以外でも地域の医療・介護関係者との情報共有を円滑に行い、安心できるサポートを行っています。

在宅酸素療法、点滴管理、カテーテル管理、褥瘡処置、服薬管理、終末期ケアなど、医療依存度の高い人への訪問も実施し、緊急時に備えて24時間体制で急な体調の変化や必要な医療処置に対応しています。利用者だけでなく、そのご家族にも在宅療養する上で必要なサポートを行っています。

高齢化が進む伊賀地域では、慢性疾患の人や老老介護、一人暮らしの世帯が増加し、在宅療養の需要

が高まっています。当ステーションでは、住み慣れた地域・住み慣れた自宅でその人らしく暮らせることを大切に、身体的ケアだけでなく精神的な支援や家族支援にも力を入れています。

今後も、医療と生活の両面から利用者の皆さんが在宅で安心して過ごせるよう、活動を続けていきます。

(訪問看護ステーション 玉田 智絵)



明日に向かって～差別をなくしていくために～

平和を問いつける～平和記念式典に参列して～ 一人権政策課～

市では、次世代を担う中学生が戦争の悲惨さと平和の尊さを学ぶため、「伊賀市非核平和推進中学生広島派遣事業」を実施しています。私は昨年と一昨年、派遣団の一員として広島平和記念式典に参列しました。

戦後80年の節目となった昨年は、世界120カ国以上から、政府関係者をはじめ多くの人が集まっていて、私も身の引き締まる思いでした。8月6日午前8時15分、原爆投下の瞬間を告げるサイレンが響き渡ったとき、会場は深い静寂に包まれました。1分間の黙とうを捧げるその時間、そこにいるすべての人が当時を思い起こし、平和を祈り、「平和とは何か」を考えたはずです。あの空気感、あの日、あの場所に立たなければ感じるこのできない、特別なものでした。

戦後80年が経過し、被爆者から直接話を聴く機会は減っています。だからこそ、現地で学んだ私たちが、次世代へと語り継いでいかなければなりません。そのためには、まず自分自身に「平和とは何か」を問いつける必要があります。

私たちの日常は、本当に平和だと言えるでしょうか。戦争がないことだけが平和ではありません。現代社会は、いじめや差別、SNSでの誹謗中傷など、多くの問題で溢れています。こうした身近な問題に向き合うことも、平和への大切な一歩だと考えます。

今年も15人が、市の代表として広島へ向かいます。派遣団の皆さんには、その趣旨をしっかりと理解し、現地でしか得られない学びを経験してほしいと思います。そして、学んだことや得た気づきを、次の世代へと語り継いでいってほしいと思います。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ



伊賀の歴史余話 48

田中善助と瀑布図

田中善助は、伊賀地域の近代化の礎を築いた実業家・政治家として知られる人物です。厳倉水電などの水力発電事業、伊賀鉄道に代表される鉄道事業、さらには銀行や伊賀傘同業組合の設立など、多方面に数えきれない業績を残しました。

一方で善助には、趣味の世界に才能を発揮した一面もありました。「鉄城」の雅号を用い、味わい深い書画や陶芸作品の数々を残しています。

善助が、この多彩な才能を存分に活用したのが上野公園の整備でした。昭和2(1927)年、上野町長であった善助は、公園の入り口に滝を配した池を造り、池のほとりに愛問亭を完成させます。

しかし、この一連の整備費用を町費だけでまかなうのは困難でした。そこで善助は一計を講じます。自らの画力を生かして200枚の滝の絵を描き、それを提供することで1口10円(現在の約6,000円相当)の寄附を募ったのです。

この発案は、たちどころに賛同を得たようですが、200枚の絵を描くのは善助をもってしても簡単な

ことではありませんでした。当時、上野徳居町で製糸工場を営んでいた押坂家に善助が滝を描いた一枚の色紙が残されています。

色紙の裏面には貼紙があって「約束を果たすために観瀑旅行をしているが、酷暑にくわえて多数の絵が必要で思うに任せない。時間が必要なので、それまでは色紙に描いた滝の絵で許して欲しい」との趣旨が記されています。真珠の御木本幸吉らとともに「三重の三偉人」と呼ばれる田中善助ですが、残された色紙は、その偉大な実業家が事業にかけた奮闘の痕跡です。



▲田中善助(鉄城)の色紙

文化財課歴史資料係 ☎/FAX 41-2271



「イガプロ」とは、「イガ」と「プロダクト(製品)」、「プロフェッショナル(専門家)」などさまざまな「プロ」を掛け合わせた造語です。

物流の今と未来を創る 双福鋼器株式会社

当社は、倉庫や事業所で使用される鋼製ラック、パレットラック、移動ラック、高層ラックなどの物流保管機器をはじめ、ビルの屋上やバルコニーで使われる床材や架台床などの鋼製床板の製造・販売を行っています。

当社のラックは、製法特許を取得した角パイプ構造により、高い強度と耐震性を実現しています。また、主力製品である移動ラックでは、業界に先駆けてレール施設が不要な「レールレスタイプ」を開発し、テナント倉庫や冷凍倉庫など、さまざまな現場でご利用いただいています。さらに、昨年には本社工場に高さ31mの実験棟を新設し、高層化が進む物流倉庫向けラックの性能試験や技術開発に取り組んでいます。安全性と品質のさらなる向上をめざし、日々研究と改善を重ねています。

これからも、開発・設計から製造・施工まで一貫して対応できる強みを生かし、伊賀市から全国へ、安全で信頼される製品をお届けします。

◆社員のコメント

私は事務員として、日々現場で頑張る社員をサポートしています。伊賀市内の高校を卒業した若い社員も多く、ものづくりの現場で活躍しています。フィットネスルームやカフェ風の食堂など、社員が気持ちよく働ける環境も整っています。当社の仕事や職場の雰囲気を知っていただくきっかけになればうれしいです。(事務職・女性)



フィットネスルーム



◆会社概要

【設立】 1967年2月4日
【所在地】 伊賀市治田 2506-23 (本社)
【従業員数】 全社 117人 (伊賀 87人)
【事業概要】 倉庫・事業所用各種保管棚(鋼製ラック)、移動ラック、自動倉庫ラックの製造販売、鋼製床材(フロア)の製造販売
【連絡先】 ☎ 20-9800
<https://www.soufuku.com>



問 産業政策課 ☎ 22-9727 FAX 22-9695